MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

三春わが街

MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU MY HOME TOWN MIHARU

■コミュニティだより

VOL. 102（年４回発行）

■発行日　令和４年１月１日
■発　行　三春まちづくり協会
■編　集　三春まちづくり協会広報部会
三春町大字貝山字泉沢100－1(旧若駒寮)
TEL／FAX(62)3988

新年のご挨拶

三春まちづくり協会長
相川　義則

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から、三春まちづくり協会にあたたかいご支援とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

昨年も新型コロナウイルス感染拡大で多くの行事等が二年続けて延期や中止となり皆様には大変ご迷惑をおかけしました。新型コロナウイルス感染拡大も改善の兆しが見え今年は感染が終息し本来の日常生活に戻ることを願っております。

さて、以前「三春わが街」に掲載した夢ある話、花の丘公園（紫雲寺山散策路）の園路が完成の見込みとなりました。小学一年生、運動愛好会、有志による植栽、田村高校生による奉仕活動や植栽等、一部先行で実施しました。今後は町民の皆様と植栽や環境の整備等連携して実施し、町民憩いの場の完成に向けて進めてまいりましょう。

町中から見る山、園路から見る街並み、山頂から見る満天の星空、想像するだけでわくわくします。春が来るのが楽しみです。

心温まる豊かなまち、少子高齢化の進む中、地域で支えあい、町民が誇れるまちづくりを皆様と一緒に進めていきましょう。

結びに、新年が皆様にとりまして明るく希望に満ちた素晴らしい年となりますようご祈念申し上げて新年の挨拶といたします。

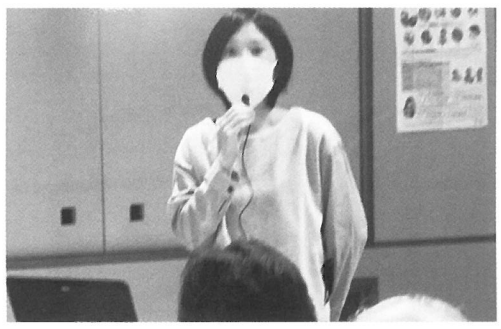
健康講演会の開催

星総合病院の緩和ケア認定看護師・尾形育恵さんを講師にお招きし、「自分らしい最後とは」というテーマで健康講演会が開催されました。

福祉部会長
人見　正司

福祉部会の健康講演会は、会員二十一名が参加し三春町保健センターで行いました。

星総合病院の緩和ケア認定看護師・尾形育恵さんを講師に「自分らしい最後とは」という内容で未来への手紙小冊子・アドバンスケアプランニングのすすめを使い、重い病気になったら、どのような治療をしてもらいたいか、今現在の自分の気持ちを書き込んでいく作業を行いました。なかなか健康な時には自分の終末期を考えることがないなか、重い話でしたが、健康なうちに自分の意志を残しておくことが大切であると気付かされる内容でした。



ぜひ、今後の人生「あなたらしく最期を迎えるため」そしてあなたらしく生きるためにアドバンスケアプランニングを作って大切な人と話し合い伝えておきましょう。

この講演で意思を残すことと伝えることが大切であると知りました。

福島環境創造センター（コミュタン）視察研修に参加して

環境部会
白岩　良子

令和三年九月六日小雨の日、まちづくり協会環境部会はコミュタン福島の視察研修に行きました。朝九時ちょっと過ぎくらいの時間に着いたのですが既に数台の大型バスが来ておりました。県内各地からの小、中学校の団体でした。

入館するとグループに分かれた生徒たちがここかしこにおり、どのグループの生徒たちもとても静かに、熱心にスタッフの説明に耳を傾け真剣に、ノートをとる姿を見て、放射能という物質についてそして自然界にもある放射線のことにしっかりと正しい知識を学んでほしいと思いました。原発事故直後は放射能物質についてほとんどの人が無知でした。無知が故に避難先でいじめにあった子供たちが沢山おります。十年余の歳月を経ても放射能物質とは何かを知らない無知な人たちから心ない言動を浴びせられた子供たちはまだまだ心癒えていないと思います。そのような人たちの心が安らぐようにしっかりと学んでほしいなと生徒たちを見て思いつつ、館内へと足を進めました。

最初の部屋では福島原発社屋のすべて。地震、津波による原発事故、社屋が破壊され鉄筋がむき出しに曲がりくねり事故の凄まじさを見ました。

次へと館内を進むと身の回りの放射線を測定しようと言うコーナーでは放射線測定器で自然界の身のまわりのものから放射線が出ていることを確認。自然界の放射線について見れる霧箱がありました。霧箱の中の放射線が右に左斜めに流れる様を見ていると神秘的でさえありしばし見とれてしまいました。

コミュタン福島のメインはやはり三六〇度シアター。ふくしまの新たなステージ、これからのふくしまの環境、未来を考えて何かを創り出せるきっかけになりそうな、福島の四季折々の自然、福島の行事、人々の暮らし、そして徹底した食の安全を音と映像で余すことなく映し出され、改めて福島の素晴らしさに感動。これからも一人一人が知恵を出し合いこの豊かな福島を守りたいと思う研修でした。

天上のキャンバス
散策路ウォーク　不動山・桜谷散策路

地域部会　圓谷　彰孝

古代・中国の思想書、『淮南子（えなんじ）』（前漢・紀元前）に、「五十にして四十九年の非を知り、六十にして六十化（け）す」とある。

人生の半ばに、来し方を振り返り、生きざまを検証することは、大事だが、容易ではない。歳月を経るごとに、人は自らを肯定し、許容する心が働くからだ。

だが、刻一刻と変化する無常の世にあって、自己を改め、新生することは、いのちの営みそのもの、ともいえるのだ。

自作の紙芝居を披露する深谷さん

教育者であった安岡正篤（やすおか・まさひろ）さんによると、『処生訓』を著わした江戸期の儒者、貝原師が、益軒と名乗ったのは、死と向き合う一、二年前のことだ。それまでは、損軒と称し、若いときの行動を悔い、自戒の生活を、己に課した。師は八十四歳で永眠するまで、精進を積み重ねたのだ。猛省を促される話である。

秋晴れの一日、「不動山、桜谷散策路」を歩いた。

「百杯宴（ひゃっぱいえん）」の碑を見学。ガイドの深谷陽子さんから、酒を好み、竹を愛した、川前紫渓（かわまえ・しけい＝幕末の儒者）のエピソードを聞き、「不動山散策路」へ。阿武隈高地の急坂を上り下りし、福聚寺を眼下に、「桜谷散策路」に向かった。

三春を拠点とした地図に見入る

坂道をふみしめ、上っていくと、突如として、目の前にぽっかりと、空間が開けてくる。天上に浮かぶ、巨大なキャンバスの出現である。お城山と、城下の一部が広がり、新庁舎や、福祉会館が整然と並んでいた。

そこに、人生の途上で、記憶に刻んだ、数々の出来事を置いてみる。

陰影に、にじんだ日月（じつげつ）があり、彩りを放つ、絶頂のときもあった。多くの善意に支えられ、新たな決断をせまられる場面もあったのだ。

キャンバスに描かれた、それらを俯瞰（ふかん）すると、見えてくるものがある。

半世期の過ごし方である。非を知り、自省を、思い知らされるのだ。

だれも、大自然の前では、おのずと謙虚になる。あらがいようのない、大きな力に包まれるからだ。

そんな思いに浸りながら、散策路をあとにし、「ライスレイクの家」に足を向けた。深谷さん自作の紙芝居を鑑賞するためである。

三春に愛着をもつ深谷さんは、三春藩主であった、秋田氏の歩みを中心に、時代の変遷を語った。

三春の歴史を学び、散策路を楽しむ

「散策路は、歴史を語る道でもあります。わたしたちが、いま歩いてきたコースを、三春の礎を築いた、数知れない人たちが通り、思索を深め、行動を改めていったのです。散策路に一歩、足を踏み入れると、彼らの息吹が伝わってきます」

参加、十五人。

お城山公園　アジサイ草刈り

十月三十日の早朝より、協会員十四名が参加し、お城山公園のアジサイの草刈りを実施しました。晴れ間も覗き、草刈りもはかどりました。

開花を祈り、真心で剪定を行う

環境放射線量（通学路）瞬間測定の実施

環境部会

今年度も二〇一四年からの継続事業として、東京電力福島第一原子力発電所の事故による、町内通学路七十ヶ所の瞬間放射線量測定を実施いたしました。

《測定結果》

●最高値
○・一二
マイクロシーベルト
（城山公園・他四ケ所）

●最低値
○・○六
マイクロシーベルト
（新町地区）

新町地区は前年度に続き、全て○・一○マイクロシーベルト未満でした。今年の測定は天候不順の日が続き測定結果に昨年度より、放射線量のバラツキ傾向が、見られました。

尚、通学路放射線量の測定結果については、「一覧表」と「グラフ」で回覧にて、お知らせいたします。

編集後記

▼三春は、山間に帯のように入り組んだ街並みと、その合間合間に多く点在する神社仏閣の様子などから、規模は小さいが三春の雰囲気は鎌倉に相似している。この山あいの町が歴史的人物や著名人を多く輩出してきたことは誠に立派なことである。▼伊達政宗の正室として生涯政宗と連れ添って四人の子供をもうけた愛姫。自由民権運動に開眼して本格的運動を展開、ついには板垣退助らと共に自由民権派の中心人物となっていく河野広中。▼近年では、昭和五十年に女性として世界で初めて世界最高峰のエベレスト登頂に成功、その後これまた女性として世界初の七大陸最高峰登頂者になった田部井淳子（旧姓・石橋）さん。▼当時私は田村高校の三年生で、先輩であることを知り誇らしく思った。秋に母校で講演に来てくださったことを覚えている。残念ながら平成二十八年に鬼籍に入った。福島県民栄誉賞第一号受賞者である。

《佐藤　久夫》

コミュニティだより
「三春わが街」第一〇二号
発行日　令和四年一月一日
発　行　三春まちづくり協会
編　集　三春まちづくり協会
広　報　部　会
三春町大字貝山字泉沢一〇〇一
（六二）三九八八